

# 家族の力がもたらす品種開発と安定経営

鉢花経営 田主丸町 高尾 光一さん（37歳）  
よしひさ  
圭寿さん（36歳）

## 就農のきっかけ

（光一さん）高校卒業後、愛知県の花生産者の元で2年間研修した後、父の下で就農しました。

（圭寿さん）同じく高校を卒業し、福岡県農業総合試験場で1年間研修を受け、更に、花屋に1年間勤務した後、就農しました。

## うれしかったこと

（光一さん）初恋草、クリスマスローズ、サザンクロス、あじさい、ブルーベリーなど様々な品目を栽培しています。交配がうまくいって、新しい品種ができた時はうれしいですね。

（圭寿さん）商品が売れていくことです。野菜などと違い、花が売れるということは、景気も良いということですから。

## 気をつけていること

（圭寿さん）父親がまだまだ現役ですし、兄も代表として全体を取り仕切っています。家族ですが、2人をたてることで、組織として経営が上手くいくように意識しています。

## 今後の方向性・展望

（光一さん）交配によって良いものを作り出し、品質を高めて出荷を安定させたいです。世の中は、経営の大規模化を進める流れですが、小さい経営体なりのやり方で努力すれば良いと思います。オリジナルのものを作り、自分の顧客を作ることが、これからの農業にも大切だと考えています。



# クラブの結束を強くする安全・安心なお米作りとみかん栽培への挑戦

農業研修・地域活動 田主丸町 田主丸4Hクラブ

## 主な活動内容

クラブ員の農地を相互に訪問し意見交換することで、農業経営や栽培技術の向上を目指しています。また、奉仕活動や消費者交流事業など、地域とのつながりを大切にしています。

## 「4H米」へのこだわり

田主丸4Hクラブの伝統として受け継がれている、化学肥料を使わず、減農薬で生産した、安全・安心なヒノヒカリです。

減農薬・無化学肥料にこだわっていますので、4Hクラブのクラブ員みんなで力をあわせ、天候や害虫の情報に気を配り、田まわりをして事前対策を怠らないようにしています。

そのおかげで今年は害虫や台風が多かったのですが、20アールの水田から840kgを収穫することができました。

4H米は主に地元のお祭りである「田主丸耳納の市」で、クラブ員が消費者の方へ直接販売しています。

## 今後の活動について

田主丸町は、日本でも有数のカンキツ苗木の産地ですが、果実として出荷しているクラブ員はほとんどいません。これからは、みかんのことをもっと知って、苗木の栽培技術を向上させたいとの思いから、新たな取組として、今年からみかんの栽培を始めました。

将来は「田主丸耳納の市」で4H米とともにみかんを販売し、苗木産地田主丸をもっとPRできるよう頑張ります。

